

DPC/PDPS 導入影響評価のための調査に係る論点について

1. これまでの調査の総括

(1) DPC/PDPS 導入の評価

DPC/PDPS 創設から実施された一連の調査により、以下の事項は毎年の調査結果のまとめで繰り返し明らかにされてきている (D-7-1)。

- 平均在院日数の減少、入院患者数の増加、がんの化学療法・放射線療法のための計画的再入院の増加等、医療の効率化が進展。
- 退院患者調査で明らかに粗診粗療を疑わせる事実(データ)は示されていない。
 - 再入院率の上昇は、計画的な化学療法・放射線療法を目的とした入院が多くを占める。
 - 重症患者を避ける等、問題となるような診療行動は認められていない。

(2) 現行の調査の課題

一方で、現行の調査では、次のような限界も指摘されている。

- 診療の形態が入院前後の外来も含めた一連の診療提供に変化しつつある中で、外来を含めた検証ができない。
 - 退院後の外来について、自院専門外来に通っているのか、紹介元に通っているのか評価が不十分。
 - 救急の機能は外来も含めて評価する必要がある。
 - 外来化学療法と入院化学療法の役割分担の実態について調査できない。等
- 施設機能の調査が不十分。
 - 医療機関群・機能評価係数Ⅱについて今後の検討を更に進めていく上で現行の調査事項だけでは十分な評価が困難。
- 医療の質に関する評価を充実させることが求められている(現行項目だけでは医療の質的評価が難しい)。

2. 今後の調査のあり方について

- 現行調査の内容については、DPC 対象病院・DPC 準備病院の調査負担も考慮し、これまで判明した点・そうでない点を整理した上で、調査内容の重点化・簡素化を図るべきではないか、と指摘されている（平成 22 年 6 月 30 日中医協総会）。
- このような経緯を踏まえ、今後の調査の考え方を次の様に整理し、引き続き具体的な調査様式・項目等について次回以降検討してはどうか。

【今後の調査の考え方】（案）

- (1) 現在収集している調査項目については、データ収集を継続する。
- (2) 収集したデータについて、重点的に評価・分析を行う項目と、集計・分析によって従来傾向の確認にとどめる項目に整理する（モニタリング）。
- (3) 重点的に評価分析する項目に関連して、必要に応じた調査事項の追加等による充実を図る。

(1) 重点的に評価・分析を行う項目

例) ① 外来診療に関する調査

入院医療と直前直後の外来診療は一連の診療として切り離せなくなってきており、また、救急医療の実態を調査・検証するためにも外来診療に関するデータが必要でないか。

② 施設機能（構造的因子等）に関する調査

今後、基礎係数（医療機関群）・機能評価係数Ⅱの検討を進めて行くにあたって、様式 3（施設調査票）の拡充が必要ではないか。

③ 医療の質に関連する調査

特定の疾患・プロセス等に着目した分析や調査項目の追加により、医療の質的な評価（分析）を試行的に実施してはどうか。

(2) 経時変化の確認（モニタリング）にとどめる項目

例) ① 平均在院日数

② 入院経路 等

これまでの調査で概ねの傾向は把握されており、またその傾向に変化がほとんど認められない事から、今後は、同様のデータの集計及び公表は行うが、分科会としては、経時的变化の確認にとどめてはどうか。

【今後の調査のイメージ】

調査項目・調査内容等	現行		今後
(1) 平均在院日数	○	→	モニタリング
(2) 入院経路	○	→	モニタリング
(3) 退院先状況	○	→	◎
(4) 退院時転帰	○	→	モニタリング
(5) 再入院・再転棟	○	→	◎
(6) 患者構成	○	→	モニタリング
外来診療に関する調査	—	→	◎ (新設)
施設機能に関する調査(様式3)	○	→	◎ (拡充)
医療の質に関連する調査	—	→	◎ (新設)